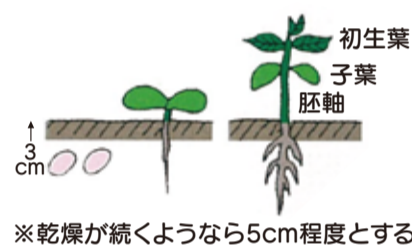


大豆栽培こよみ

時 期	6			7			8			9			10			11																													
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下																											
主な作業	適地の選定			土づくり			播種前除草			施肥(耕起・整地)			除草剤散布			中耕・培土			追肥			害虫防除			害虫防除			病害虫防除			害虫防除			青立株採取			成熟			乾調					
作業内容	水系別に集団化を図る。			種子消毒(ハト害・紫斑病)種子消毒基準参照			排水溝設置 周囲にやや深い排水溝を設け落水口へつなぐ。地力増強 麦ワラすき込み。アツミン、土力の素 pHの矯正 目標pH6.0~6.5 炭酸苦土石灰、ミネラルG			施肥基準参照 PK化成40号の散布を行う。			雑草防除基準参照 播種時期と栽植密度参照			アサガオ・ホオズキを手作業で取り除く。ガードベイトAを3kg/10a株元散布を行う。ネキリムシ 生育初期に大豆地際部の土壌表面に			本葉2枚から4枚頃までに行う。8月10日頃までに必ず1回は実施する(倒伏防止と雑草対策)。			生育不良の場合は開花期までに化成肥料を10kg/10a施用する。			早めに手取りで除去する。白変葉が目立つてきたら薬剤による予防を行う。			ハスモンヨトウのふ化幼虫が群生している白変葉を			紫斑病 カメムシ ハスモンヨトウ の薬剤防除(三種混合)			ハスモンヨトウの多発年は、液剤による徹底防除を行う。カメムシの薬剤防除(補正)			アサガオ ※幼虫(6齢) ※成虫			ホオズキ ※ホソアオゲイトウ			刈取適期は成熟期の7日後から(子実水分16%以下) 乾燥した時期 成熟期は大部分が落葉し莢を振ると、音をたてる程度に 青立ち大豆や雑草は刈取前に抜き取る。		

播種・出芽期



中耕・培土



品種特性表(7月10日播)

品種名	開花期	成熟期	耐倒伏性	10a当り子実重	百粒重
ちくしB5号	8月21日	11月1日	やや強	366kg	32.4g

土づくり

施用	資材・方法	施用量(kg/10a)	備考
有機物の施用	麦ワラすき込み	全量	播種作業に支障がないようワラは短く切る
	アツミン	40	保肥力を高める腐植酸が主成分
土壌改良材の施用	炭酸苦土石灰	100~200	酸性障害対策、大豆に必要なカルシウムを含む
	消石灰	140~200	酸性障害対策、カルシウムのほかケイ酸も含む
	ミネラルG	45	保肥力を高める腐植酸のほかケイ酸加里を含む
	土力の素	45	保肥力を高める腐植酸のほかケイ酸加里を含む

<有機物の施用> 収量向上には地力の増強が必要です。
 <土壌改良材の施用> 大豆は酸性に弱い作物です。大豆栽培に適した土壌条件: pH6.0~6.5

種子消毒基準

薬剤名	処理方法	処理量	備考
キヒゲンR-2フロアブル	塗沫	種子10kgに200ml	ハト害、紫斑病
クルーザーMAXX	塗沫	種子10kgに80ml	ハト害、紫斑病、茎疫病、白絹病、黒根腐病

施肥基準

大豆作付条件	肥料名	基肥	成分量			遅播はちくこのめくみ444を使用する
			窒素	りん酸	カリ	
一般	PK化成40号	30	6.0	6.0	2.1	
遅播等	ちくこのめくみ444	15	2.1	2.1	2.1	

※大豆種子は肥料焼けし易いので、播種と施肥位置が重ならないように注意します。
 ※生育不良の場合は開花期までに化成肥料(16-0-16)を10kg/10a施用します。

播種時期と栽植密度

品種名	ちくしB5号(1株当り2粒)	
播種期	7月1日~20日(適期播)	7月21日~(遅播)
条間(cm)	65	
株間(cm)	30~20	15~10
10a当り播種量(kg)	3~5	6~9

※適期の範囲内でなるべく早く播種します。
 ※異品種混入防止の為、ほ場には一品種の作付けとします。

令和7年大豆栽培管理記入欄

★「作付品種名」「作付面積」「主な作業月日」を記入して下さい。

	6月			7月			8月			9月			10月			11月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
ちくしB5号	土づくり			種子消毒			中耕・培土			病害虫防除			収穫					
	/ ~ 日			/ ~ 日			/ ~ 日			/ ~ 日			/ ~ 日					
	基肥			中耕・培土														
	/ ~ 日			/ ~ 日														
a	雑草防除			病害虫防除			/ ~ 日											
	播種			/ ~ 日														

- * 安定多収は土づくりと適期防除から
- * 農薬購入の際は、印鑑が必要です。
- * 一工程播種で適期播種を目指しましょう。
- * 農薬は保管庫等でしっかり管理しましょう!
- * 購入・使用のつど、ラベルを確認する!
- * 農薬の飛散防止に気をつける!
- * 散布器具はきちんと洗浄する!
- * 農薬の使用状況を記録する!

雑草防除基準

使用時期	除草剤名	10a当り使用量	希釈水量	留意点
耕起前	ラウンドアップマックスロード	200~500ml	50~100ℓ	播種前雑草が多い場合
	バスタ液剤	300~500ml	100~150ℓ	一年生雑草(イネ科・広葉)対策
播種後~ 出芽前まで	ラクサー乳剤	400~800ml	100ℓ	土塊はできるだけ砕き、覆土は2~3cmとする。
	プロールプラス乳剤	400~600ml	100ℓ	
	フルミオWDG	5~10g	100ℓ	ホオズキ、ケイトウ対策 ラクサー乳剤、またはプロールプラス乳剤との混用
生育期	ラクサー粒剤	4~8kg	-	覆土は2~3cmとし、よく整地して鎮圧する。 二重散布にならないように均一に散布する。
	ポルトフロアブル	200~300ml	100ℓ	イネ科雑草3~10葉期、但し収穫30日前まで イネ科雑草対策(スズメノカタビラを除く)
	パワーガイザー液剤	200~300ml	100ℓ	大豆出芽直前~3葉期まで 広葉雑草(アサガオ類)対策
	大豆バサグラン液剤	100~150ml	100ℓ	大豆2葉期~開花前、但し収穫45日前まで 広葉雑草対策
	アタックショット乳剤	30~50ml	100ℓ	大豆本葉2葉期~開花前、但し収穫45日前まで 広葉雑草(アサガオ類)対策 散布により大豆に褐変、白化などの薬害が生じることがある。
株間処理	バスタ液剤	300~500ml	100~150ℓ	収穫28日前まで (大豆本葉5葉期以降雑草生育期) 大豆にかからないように散布する。

※周辺の作物に飛散しないように注意 ※中耕、培土による耕種防除も併せて行います。
 ※フルミオWDGは、微量でも他作物に影響を与える可能性があるため
 散布後は専用の洗浄剤を使用し、タンクやホース・ノズルを十分に洗浄する。

病害虫防除基準

液剤体系	時期	対象病害虫	薬剤名	希釈倍数	10a当り使用量	使用回数	備考
液剤体系	8月中下旬	ハスモンヨトウ	ノーモルト乳剤 又は ブレオフロアブル	2,000倍	100ℓ	2回以内	脱皮阻害剤 オオカバガには1,000倍
			グレーシア乳剤	2,000~3,000倍	100ℓ	2回以内	ハダニ類
	9月中旬	カメムシ類	スタークル液剤10	1,000倍	100ℓ	2回以内	
		紫斑病	トップジンM水和剤	1,000倍	100ℓ	4回以内	
10月上旬	カメムシ類	キラップフロアブル	2,000倍	100ℓ	2回以内	補正	

無人航空機体系	時期	対象病害虫	薬剤名	希釈倍数	10a当り使用量	使用回数	備考
無人航空機体系	8月中下旬	ハスモンヨトウ	ノーモルト乳剤 又は ブレオフロアブル	8~16倍	0.8ℓ	2回以内	脱皮阻害剤
			ブレオフロアブル	8~16倍	0.8ℓ	2回以内	
	9月中旬	ハスモンヨトウ	プロフレアSC	32倍	0.8ℓ	3回以内	
		カメムシ類	スタークル液剤10	8倍	0.8ℓ	2回以内	
10月上旬	カメムシ類	キラップフロアブル	16倍	0.8ℓ	2回以内	補正	

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底します

- ①大豆を栽培するほ場の周辺に作付けされる農作物の状況を確認し、防除日程等の連絡を徹底します。
- ②ブームスプレーヤー(乗用管理機)や動力噴霧機で防除を行う場合は、ドリフト低減ノズルを使用するなどして、農薬の飛散を未然に防ぎます。